

地域再生計画評価調書(地方創生拠点整備交付金事業効果検証調書)

地域再生計画の名称	「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画	施設整備計画の名称	瀬戸内しまなみ海道沿線(大三島)における滞在・交流拠点整備事業	令和2年度評価
総合戦略における位置づけ	基本目標3. だれもが訪れたいと感じる魅力あふれるふるさとを創る 具体的施策(ア)サイクルシティ構想の推進 ①サイクルステーション構想推進 基本目標3. だれもが訪れたいと感じる魅力あふれるふるさとを創る 具体的施策(ウ)広域観光周遊ルートの形成 ①広域観光周遊ルートの形成 基本目標4. 中心部と周辺部が連携した日本でいちばん住みたい地域を創る 具体的施策(イ)日本でいちばん住みたい地域づくり ②小さな拠点を核とした地域づくり			

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

評価指標		基準年数値	目標数値、実績値及び目標数値に対する達成度(上段は増加分、下段()内は総数)						達成度についての分析	
				2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)		最終年目標数値 2020年
目標1	観光入込客数	2,841 千人	目標	+29 千人 (2,870 千人)	+30 千人 (2,900 千人)	+40 千人 (2,940 千人)	+60 千人 (3,000 千人)	+80 千人 (3,080 千人)	+239 千人 (3,080 千人)	目標1の観光入込客数については、目標に対する達成度は、-1,712.5%となった。 これは、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大の影響を受けて、人流が大幅に減少したことが要因と考えられる。 目標2のレンタサイクルの利用件数については、目標に対する達成度は、-425.9%となった。 これについても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、レンタサイクルの一時休業等の影響を受けたことが要因と考えられる。 目標3の外国人宿泊者数については、目標に対する達成度は、-6,250.2%となった。 これについても、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大のため、訪日外国人の渡航制限等により入国する外国人が大幅に減少したことが要因と考えられる。 目標4の施設利用収入については、目標に対する達成度は、-450.9%となった。 これについても、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大防止のため、緊急事態宣言が発令され、人流が著しく制限されたことが要因と考えられる。
			実績	▲60 千人 (2,781 千人)	+37 千人 (2,818 千人)	▲239 千人 (2,579 千人)	+177 千人 (2,756 千人)	▲1,370 千人 (1,386 千人)	▲1,455 千人 (1,386 千人)	
			達成度	▲206.9%	123.3%	▲597.5%	295%	▲1,712.5%	▲608.8%	
目標2	レンタサイクルの利用件数	67,012 台	目標	+2,988 台 (70,000 台)	+4,000 台 (74,000 台)	+5,500 台 (79,500 台)	+7,200 台 (86,700 台)	+7,500 台 (94,200 台)	+27,188 台 (94,200 台)	目標3の外国人宿泊者数については、目標に対する達成度は、-6,250.2%となった。 これについても、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大のため、訪日外国人の渡航制限等により入国する外国人が大幅に減少したことが要因と考えられる。 目標4の施設利用収入については、目標に対する達成度は、-450.9%となった。 これについても、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大防止のため、緊急事態宣言が発令され、人流が著しく制限されたことが要因と考えられる。
			実績	▲4,664 台 (62,348 台)	+4,024 台 (66,372 台)	▲8,068 台 (58,304 台)	+5,860 台 (64,164 台)	▲31,945 台 (32,219 台)	▲34,793 台 (32,219 台)	
			達成度	▲156.1%	100.6%	▲146.7%	81.4%	▲425.9%	▲128.0%	
目標3	外国人宿泊者数	15,540 人	目標	+320 人 (15,860 人)	+340 人 (16,200 人)	+360 人 (16,560 人)	+400 人 (16,960 人)	+440 人 (17,400 人)	+1,860 人 (17,400 人)	目標4の施設利用収入については、目標に対する達成度は、-450.9%となった。 これについても、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大防止のため、緊急事態宣言が発令され、人流が著しく制限されたことが要因と考えられる。
			実績	+2,837 人 (18,377 人)	+2,529 人 (20,906 人)	+6,765 人 (27,671 人)	+5,095 人 (32,766 人)	▲27,501 人 (5,265 人)	▲10,275 人 (5,265 人)	
			達成度	886.6%	743.8%	1,879.2%	1273.8%	▲6,250.2%	▲552.4%	
目標4	施設利用収入	26,000 千円	目標	+2,000 千円 (28,000 千円)	+2,000 千円 (30,000 千円)	+6,000 千円 (36,000 千円)	+3,000 千円 (39,000 千円)	+4,000 千円 (43,000 千円)	+17,000 千円 (43,000 千円)	施設のリニューアルオープン(2018年4月末)による宿泊者数および施設利用収入の大幅な増加を見込んでいたが、2018年の7月豪雨や現在のコロナ禍の多大な影響を受け、各目標の達成度については、満足できるものとはならなかった。 今後、コロナの収束期が訪れるのに合わせ2019年並みかそれ以上の伸び率となるよう努力していきたい。
			実績	+1,050 千円 (27,050 千円)	▲3,458 千円 (23,592 千円)	▲554 千円 (23,038 千円)	+11,208 千円 (34,246 千円)	▲18,036 千円 (16,210 千円)	▲9,790 千円 (16,210 千円)	
			達成度	52.9%	▲172.9%	▲9.2%	373.6%	▲450.9%	▲57.6%	

事業の目的	近年急増している外国人サイクリストを中心とした観光客の島しょ部における周遊・滞在拠点を整備するため、大三島ふるさと憩いの家(大三島宗方)を改修して集客力と拠点性の強化を図るもの。	事業費	117,149千円
施設整備の内容	【拠点機能強化のための建物改良】 国内外からサイクリストや観光客を呼び込み、島しょ部における滞在・交流拠点として機能強化を図るため、2階建て棟の2階部分の一部を食堂兼交流スペースとして活用できるよう屋根・床下の改修と耐震補強工事を実施した。2階建て棟の屋根は瓦屋根から板金屋根に改修して軽量化し、耐震性能を高めた。 【入浴施設の増設】 海を眺めながら入浴できる風呂棟(セミパブリックバス)を増設し、風呂棟と本棟(2階建て棟)の間には、景観に配慮した誘導路として渡り廊下(石畳)を設置し、利用者の利便性を向上させ、滞在拠点としての機能強化と誘客促進、交流機会の拡大を図る。 【インバウンド誘客のための模様替え】 客室のフローリング化や来訪者も利用できる洋式トイレの増設、交流スペースの設置、食堂の内装や照明等の改修により、宿泊・利用環境を整備することで滞在拠点に必要な快適性を高め、インバウンドの誘客促進を図る。		
事業効果	廃校となった木造の小学校を耐震化し、宿泊施設及び地域の交流拠点としてリノベーションを行うとともに、海の見える風呂棟の新設による新たな観光機能を付加することで、瀬戸内しまなみ海道におけるサイクリストやインバウンドの滞在・周遊の拠点や地域住民の交流の場として利用されることで、地域の活性化に繋げることができた。		

施設の活用状況
・令和2年の総宿泊者数は1,301人(令和元年:3,000人)、そのうちサイクリストは265人、外国人宿泊者数は7人 ・令和元年中は食堂や2階の交流スペース等を有効に活用し、みんなのワイナリー建設説明会やワイン講習会、地域の伝統行事である宗方權伝馬、広島・愛媛両県知事による広島・愛媛交流会議、猪レモン鍋とワインマリアージュの会などのイベントが開催され、地域住民の交流の場として地域の活性化に繋げることが出来ていたが、令和2年はコロナの影響により、エフナン「大三島FM局開局記念」アイランドウィーク「Tips」古今東西大三島(3/30 数名)と、えひめ次世代マイスター育成事業(9/16 約30名)にて活用されるのみに留まった。 ・雑誌への掲載6件、テレビ・ラジオ番組での紹介が4件、webサイトへの掲載が1件あり、廃校を活用した宿泊施設の魅力を国内外に発信した。

評価及びそれを受けての市の方針

外部有識者による評価	議会からの意見	今後の方針、改善点など
☒ 総合戦略のKPI達成に有効であった ☐ 総合戦略のKPI達成に有効とは言えない (主な意見) ・テレビや雑誌での露出機会が多いことは大きな魅力であり、効果が出ていると思われる。しかし、それだけでは観光入込客の増加にはつながらないので、大三島以外の地域や施設と連携した取り組みが必要。 ・しまなみ海道は観光資源に恵まれているが、集客力を集める拠点が乏しく、その拠点を増加させることと、これらの拠点のなかで快適に滞在できる施設は必要である。そのような中、しまなみ観光の宿泊地として最適な島の一つである大三島に、誘客効果を持つ拠点施設を整備する方向性には期待感がある。継続的にプロモーションに力を入れて欲しい。 ・新型コロナの影響が長引く可能性がある中、新たなターゲット(需要)を見据えた発信も必要だと感じる。施設の立地環境、整備した風呂棟などによる付加価値を前面に押し出した発信を期待する。	・観光入込客数、レンタサイクル利用件数及び当該施設利用者数を増やすために、情報発信をしっかりと行い、管理運営者や地元住民とも連携し取り組む必要がある。	・令和2年は新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大の影響により、観光業界全体が大きな打撃を受け、観光入込客数、宿泊者数、インバウンド、収益全てが大幅に落ち込む事態となった。 ・コロナ禍に対応するため、手指消毒やパーティションの設置など感染防止対策を徹底した上で、令和3年にはフォトウエディング事業を岡山県の事業者と共同で実施するなど、新たな事業展開も予定している。 ・テレビや雑誌媒体等への露出の機会は依然として多く、廃校を活用した宿泊施設という非日常空間を生かし、今後も各種メディアやSNS等を活用し、瀬戸内しまなみ海道の景観・食・文化等の魅力発信に努める。 ・今後のコロナの感染収束状況を鑑みながら、伊東建築塾やみんなのワイナリーとの連携をさらに深め、地域住民や移住者が集う交流の場、しまなみエリアを訪れる観光客の滞在・周遊の拠点として、感染防止対策を徹底した上で、イベント等の開催を促進する。